



公益財団法人 日本スポーツ協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会 報

第 80 号

令和 2 年 3 月 15 日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会

会 長 照 沼 一 美

事務局 〒 306-0204

古河市下大野 1463-4

事務局長 鈴 木 義 夫

TEL・FAX 0280-92-4555

会員数 1,365 名 (R2.3.15 現在)



全県研修会（令和元年 8 月 4 日（日） ケーズデンキスタジアム・水戸）

公益財団法人 日本スポーツ協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ	2
事務局長の活動報告	2～3
茨城県体育協会あいさつ	3
令和元年度 (公財) 日本スポーツ協会表彰受賞者あいさつ ...	4～5
専門委員会より	5～6
支部だより	6～8
本協議会事務局だより	8

会長ごあいさつ



会長
照沼 一美

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、ご機嫌よろしくお過ごしのことお慶び申しあげます。令和二年度を迎えるにあたり、本年度が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込め茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

平成三十一年度（令和元年）事業も予定通り滞りなく、すべて終了いたしました。これらは役員の皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

本協議会の主事業である登録更新時の必須更新研修である全県研修会においては、八月四日、ケーズデンキスタジアム・水戸に於いて実施いたしました。支部単位の更新研修会として、県西部地区研修会、県西支部が主管となり千代川公民館に於いて、中央地区研修会、中央支部が笠松運動公園陸上競技場会議室に於いて、鹿行地区研修会、鹿行支部主管により行方市北浦公民館に於いて、其々に実施いたしました。支部の特徴を演出し、役員の皆様のお力が前面に出されて、参加者のニーズに 대응することが出来たものと確信いたしております。

毎年の恒例行事になりました、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の表彰式典が、去る平成三十年十二月七日、東京都港区高輪TKPガーデンシティ1品川に於いて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は、以下の通りです。

▽県スポーツ指導者協議会推薦者

佐藤 仁様・須藤 利様

阿久津 しげ子様

▽各競技団体等推薦者

土井 一男様（水泳連盟推薦）

前田 孝通様（東海村体育協会推薦）

計五名の皆様が受賞されました。

誠におめでとうございます。

今後更なるご健勝のうえご活躍をされますようご期待申し上げます。

式典後の公認スポーツ指導者全国研修会は、特別公演がありました。

◎平成三十一年度（令和元年）

全国スポーツ指導者連絡会議（全国代表者会議）が十二月六日（金）

に2020オリンピックにちなみ新設されたJapan sports

tolympic square

において全体会議及び各ブロック

会議を開催されました。

★全体会議並びに代表者

※公認スポーツ指導者制度の改

定について

※公認スポーツ指導者育成方針

★関東ブロックスポーツ指導者協

議会

※二〇二〇年度の事業について

協議いたしました。

茨城県スポーツ指導者協議会と

致しましては県体育協会の指導の下、義務研修会を中心に、機会ある毎に「スポーツ界における暴力根絶」を訴えてまいります。又公益財団法人日本スポーツ協会の主旨に基づき「スポーツ指導者の人間力向上に向けたカリキュラムを検討して参ります。

新たな年、令和二年度が有資格者それぞれの皆様にとって、益々ご活躍されますよう、ご祈念申し上げます。終わりに二〇一九茨城県国民体育大会は天皇杯並びに皇后杯を授賞しました。関係各団体の皆様に改めて敬意を表する次第です。誠におめでとうございました。

次年度の鹿児島大会においても活躍が期待されるところであります。

終わりに、本会報をご愛読いただいております、茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご

鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

令和元年度

本協議会活動報告



鈴木 義夫

茨城県スポーツ指導者協議会
事務局長

平成三十一年度（令和元年）茨城県スポーツ指導者協議会の事業活動を、ご報告申し上げます。本協議会総会は、平成三十一年四月

二十一日（日）に水戸市・内原市民センターで開催して、本協議会照沼会長より総会席上に於いて県北支部長推薦で功労賞に八百 律様（高萩市）及び米川 優様（日立市）が受賞しました。

平成三十年事業報告及び収支決算報告並びに平成三十一年度事業計画案及び収支予算案、本協議会平成三十一年（令和元年）の令和二年度役員選出案が全会一致でご承認を得られました。

本協議会の主なる事業は、更新研修『全県研修会・地区研修会』を、今年度から茨城県内の四会場で開催して、全県研修会を研修委員会主管で、令和元年八月四日（日）に水戸市ケーズデンキスタジアム・水戸で開催に参加申込者は百五十名に対し、受講者は百三十七名、会員百三名・非会員三十四名でありました。

県西部地区研修会を県西支部主管で、令和元年十一月十日（日）に下妻市・千代川公民館で開催して参加申込者は百八名に対し、受講者は八十八名、会員六十八名・非会員二十名でありました。

中央地区研修会を中央支部主管で、令和元年十二月二十二日（日）にひたちなか市・笠松運動公園陸上競技場で開催して、参加申込者は九十七名に対し、受講者は七十七名、会員六十名・非会員十七名でありました。

鹿行地区研修会を鹿行支部主管で、令和二年一月二十六日（日）に行方市・北浦公民館で開催して参加申込者は七十二名に対し、受

講者は六十五名『会員五十名・非会員十五名』でありました。

本協議会は会報を毎年二回『三月中旬及び今年から九月中旬』を広報委員会主管で、原稿依頼、研修会取材、文書校正等など編集後には、印刷製本が出来上がり次第に本協議会事務局から六支部を通じて、会員皆様へ無料で会報を配布しており、六支部が独自に研修会または講習会の開催と支部便りを発行しております。

茨城県に登録した(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者は、令和元年十月一日現在の登録人数は三千四百二十三名であります。令和二年一月三十一日現在の本協議会六支部の公認スポーツ指導者及びJBA公認コーチライセンスで有資格者数及び会員数は『県北支部有資格者二百九十九名・会員百十六名』『水戸支部有資格者四百九名・会員百六十五名』『中央支部有資格者六百二十九名・会員二百七十九名』『鹿行支部有資格者二百名・会員百名』『県南支部有資格者千五百二十二名・会員四百六十五名』『県西支部有資格者三百九十九名・会員百八十八名』『県外有資格者八十五名・会員二十二名』で、有資格者合計三千百七十三名、会員数合計千三百六十七名の会員比率四十三・〇八%になりました。

公認スポーツ指導者は、資格取得後及び資格更新後は三年六ヶ月以内に一回以上の研修会を受講した実績が必要であり、本協議会が

主催する更新研修『全県研修会・地区研修会』に受講された方々を(公財)茨城県体育協会から(公財)日本スポーツ協会及び本協議会から(公財)日本バスケットボール協会に受講データ入力して、資格更新のご案内通知が(公財)日本スポーツ協会から送付に会員皆様をご支援いたします。

本協議会は、毎年四月、五月、十月に(公財)日本バスケットボール協会に資格取得及び資格更新が完了された公認スポーツ指導者及びJBA公認コーチライセンスの方々に会員入会のご案内文書を積極的に会費振込みにご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の発展寄与に事業運営等を会員皆様の格別なるご理解とご協力を賜わりたく宜しくお願い申し上げます。

茨城県体育協会あいさつ



茨城県体育協会
専務理事

根本 聡

日頃より弊協会の事業にご協力ご理解を賜りありがとうございます。

本年度は、天皇陛下御即位記念第七十四回国民体育大会の開催県となり、九月二十八日には、天皇皇后両陛下ご臨席の下、総合開会式が盛大に執り行われました。茨城県勢は、見事四十五年ぶり二度

目の天皇杯・皇后杯を獲得することができました。これもひとえに皆様の長きにわたるご貢献の賜物と感謝申し上げます。

これを契機にわが茨城県は、名実とともにスポーツ県としてさらに研鑽を重ねていくべく、尽力する所存です。

幣協会は、「生涯スポーツ活動の推進」「競技力の向上」「指定管理施設等の管理運営」を三つの柱に、様々な県内スポーツ活動の統括団体として事業を運営いたしております。誰もが生涯スポーツに親しめる機会と安全な環境を提供し、プレーヤーに寄り添える指導者を育成し、競技力の向上を図っていくことをめざすものです。

しかし、最近の社会の変化に伴い、スポーツを取り巻く環境も大きく変わってきております。少子化・基礎スポーツ人口の減少、スポーツ現場での反倫理的行為の表面化等、様々な問題が噴出してあります。それらの社会の動向に対応するため、スポーツ指導者に求められる新しい役割は、ますます重要になっていくことでしょう。

そもそも日本スポーツ協会は、スポーツを「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化」であると規定しております。

その目指すところは、誰もがスポーツを豊かに享受する環境を創出し、多様化を促進するために連携協働していくことであります。スポーツが、あらゆる人に一切の差別なく享受される社会でなければならぬということです。

スポーツには人の心を豊かにし、健康維持に役立ち、人々のつながりを広げる力があります。自らが心を研ぎ澄まし技術を高めていく喜びがあります。また、「する」「みる」「ささえる」など、いろいろな楽しみ方があり、そこから大きな感動を得ることが出来ます。

そのようなスポーツの価値を、守り育てていく要となるのは、やはり指導者の力に期するところが大きいのではないのでしょうか。プレーヤーを理解し、プレーヤーを取り巻く環境に配慮し、競技力の向上を図るためには、常に指導者も学び続け、自らを成長させなければならぬでしょう。そして、スポーツの価値を損なうような、暴力行為やパワーハラスメント・セクシャルハラスメントなどの行為を根絶していかなければなりません。

二〇二〇年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。昨年のラグビーワールドカップから続く、このスポーツの盛り上がり契機に、様々な事業に積極的に取り組んでいく良い機会といえましょう。幣協会としても、競技スポーツ、生涯スポーツ、インクルーシブスポーツ等、多岐にわたる分野で振興を図り、地域の活性化に寄与していくことを目指していく所存です。

茨城県スポーツ指導者協議会の皆様には、柔軟な考え方を持つ組織・指導者であり続け、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度(公財) 日本スポーツ協会表彰

受賞者あいさつ



水戸市
須藤 柊利

昭和三十五年(一九六〇)四月女子高等学校ソフトボール部監督に就任し、その後もソフトボール競技に携わってきて六十年の歳月が過ぎた。懐かしさもあつて若きあの当時の公式戦・練習試合等で汗を流した監督各位とは今もなお交流を維持し、老骨に鞭を入れ、薄くなった白髪をなびかせながらソフトボールシニアの部競技会で顔を会わせている。

振り返ってみると昭和五十六年から平成十三年までの二十一年間茨城県ソフトボール協会の審判委員長を拝命し審判道を突き進んだ。

平成十年から二十七年まで理事長として第一線に立ち雄叫びを上げて目前に迫った第七十四回国体茨城大会の成功に向けて走りだした。岸根壽英協会長をはじめ協会役員各位の一致団結した精進と国体開催地(常陸太田市・下妻市)のご協力によって第七十四回国体が開催された。常陸太田市の競技会場観戦等を終え帰途に就く。水戸

駅に近い踏切で列車の通過を告げる鐘がなり遮断機が下りていた、沿道に多くの人が立ち並んでいる「何事ですか」と尋ねると「今、天皇陛下、皇后陛下の乗った列車が通過するのです」と。程なく宵闇の迫る中、両手を振って沿道の人々に応える両陛下の笑顔が見えた。一瞬ではあつたがその姿に親近感を覚え胸中深く敬意を抱いていた。去りゆく列車の後尾灯(テールライト)を見ながら天皇・皇后両陛下のお見送りができた一時であつた。

最終日を待たず茨城大会の天皇杯・皇后杯獲得の知らせが届いた。あまりの感動で妻と共に庭に飛び出し、天空を仰ぎながら万歳を叫んだ。万歳!バンザイ!

十一月中旬、茨城県指導者協議会のご推薦を頂き、茨城県体育協会を通して(公財)日本スポーツ協会に上申された令和元年度永年者表彰の機関決定がなされたので授賞式に出席するようにとの通知であつた。十二月七日、授賞式会場になつているTKPガーデンシティ品川に赴き、そこで(公財)日本スポーツ協会代表常務理事ヨロコゼッターラン氏から表彰楯を授与された。茨城県からは五名の方が受賞された。これらの方々が今後益々精進され茨城県内でのスポーツ振興にご活躍されるよう期待いたします。

私自身も今回のこの受賞を大変名誉のあることとして素直に喜び日々の健康回復に努めて邁進したいと思つています。有難うござい

ました。



下妻市
佐藤 仁

昨年十二月七日、東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川での令和元年度公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰式において表彰されました。ご推薦いただきました茨城県体育協会及び茨城県スポーツ指導者協議会の皆様方に心より感謝申し上げます。今回の受賞に際し、改めて再認識したことは、選手にとつて指導者の影響力は多大であるということです。私にとつて、高校の恩師との出会いがすべてでした。

昭和四十九年、本県で開催された「水と緑のまごころ国体」において、恩師はハンドボール競技の教員チーム選手として活躍されました。私は恩師に憧れ、ハンドボール競技に魅せられ、就職の道に進みました。そして高体連ハンドボール専門部の強化部長として国体少年男子監督に任命され、公認スポーツ指導者資格を取得しました。それから公認スポーツ指導者として微力ながら本県ハンドボールの普及・強化や協会・高体連の組織の充実・発展を目標に掲げ努めてまいりました。また、茨城県体育協会指導主事としてスポーツの振興や競技力向上に携わることができたことは、私にとつてかけがえのない経験でした。さらに、第七十四回国民体育大会開催に向

け、国体開催準備室において、立ち上げ当初から開催準備に向けて関わることでできたことはまさに国体との運命的な縁であつたと思います。

私の座右の銘は「学ぶことをやめたとき、教えることをやめなければならぬ」です。これはロジェ・ルメールというサッカーの元フランス代表監督の名言です。私たち指導者は常に「良い指導者である」ということは、どういうことか」ということを自分に問ひながら積極的に研修会等に参加すべきです。常に学び続ける熱意や姿勢は良い指導者の絶対条件であり、若い選手たちの手本となるからです。私も恩師の情熱を引き継ぎこれからも本県スポーツの競技力向上とスポーツ振興のため取り組みたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。



水戸市
阿久津 しげ子

この度、公益財団法人日本スポーツ協会、公認スポーツ指導者表彰受賞者として、全国から百七十名の方が集いました。私も受賞者の一人として茨城県スポーツ指導者協議会のご推薦をいただき大変名誉の事と感謝申し上げます。開会に当たり、主催者の日本スポーツ協会常務理事のヨロコゼッターラン氏から心あたたまるご挨拶を頂き、身に引き締まる大

変心に残るものになりました。顧みまずと中学の部活で初めに卓球が、高校、大学、社会人、そしてレディースになってから現在まで、卓球競技に携わってきました。昭和四十九年の「水と緑のまごころ国体」そして今回の「いきいき茨城ゆめ国体」と、両大会共に競技役員として参加しました。今回は天皇陛下御即位記念の国体として卓球競技には、天皇皇后両陛下がご観戦になりました。会場の日立市池の川さくらアリーナは、熱い声援に包まれる中、地元茨城県少年少女は、初の決勝進出に、決勝では過去二十三回の優勝経験のある大阪府に一步及ばなかったものの、見事な準優勝と、会場は心をひとつに大応援団につつまれ、思い出に残る名勝負となりました。

現在も県内の各種大会の運営にかかわりながら、全国大会の経験もさせていただきました。公財、日本卓球協会主催の全国レディース茨城大会では、競技副委員長、京都大会では審判長、その後五年間にわたり大会副委員長、大会委員長と、貴重な経験をさせていただき、開催地の皆様と交流を深める事ができ、あらゆる方面の方々とお話ができ、有意義な体験談も聞くことができました。

公認スポーツ指導員になって二十余年、市内の卓球教室、茨城県笠松スポーツ学校卓球教室、県武道館でのニューいばらき卓球教室など、生涯スポーツとして、子ども達から高齢者まで、たくさん

の方々に係り指導させていただきました。現在も少子高齢化が進む中、少年団や地域卓球クラブの指導等、楽しくスポーツの出来る環境作りなど、仲間の皆さんと一緒にお手伝いできればと思います。卓球を通じて、スポーツの楽しさや仲間の大切さ、自分自身の向上心等を学ばせて頂きながら、今後とも皆様方のご指導よろしくお願い致します。

専門委員より



総務委員長

渡辺 早苗

令和元年度の各事業計画は滞りなく実施が見込まれますが、現在茨城県スポーツ指導者協議会の今後を担う規約の一部改定を総務委員会に置いて検討を重ねております。本委員会の答申をもとに、二度の検討委員会に置いて、ようや答申事項の決定をみました。この事により茨城県スポーツ指導者協議会の議決を経て、総会で決定を得ることになります。

今回の改定案は、日本スポーツ協会名称変更に合わせて文言の変更に伴う事項が主であります。各委員の皆様におかれましては、この答申をもとに十二分に検討を頂き、より良い規約の改定が出来ます事を願っております。また、会員皆様の声を反映させ

本協議会の開かれた運営執行を行うため、必要とされる細則についても、ご意見がありましたら総務委員会渡辺まで、お寄せ頂きたくお願い申し上げます。



研修委員長

青柳 薫光

昨年は、元号が五月に令和に変わり、秋には「いきいき茨城ゆめ国体」が県内各地で開催され、天皇杯・皇后杯ともに獲得するなど輝かしい成績でありました。また、今年は東京オリンピックが開催されます。七月五日・六日は本県を聖火が駆け抜け、サッカー競技はカシマサッカースタジアムが会場の一つになっており、競技種目によっては東京都以外の地域で開催されるものであります。世界の一流選手の競技が本場に近くで見られる絶好の機会でありますが、観戦チケットの入手が出来なかつた方は、残念ですが結局テレビでの観戦・応援しかないようです。オリンピック開会まで残り四か月を切つて楽しみが膨らむと同時に、選手の活躍を大いに期待しているところです。

さて研修委員会の活動をご報告申し上げます。今年度は研修委員会主管の全県研修会（ケーブズデンキスタジアム・水戸）と支部主管の地区研修会を県西支部、中央支部、鹿行支部の三カ所で開催致しました。これらの研修会を主管及び運営していただいた多くの役員

及び委員の方々のご協力に感謝申し上げます。

令和二年度の研修会は今全県研修会と地区研修会の県南支部・県北支部・水戸支部の合計四地区を予定しております。

資格を取得している方々はそれぞれの資格有効期限はご存知ですか。四年に一度（競技種目により該当しない場合があります）の更新研修が必要になることはご存知かと思いますが、有効期間の六か月前までに更新研修を受講済でないとは有効期限が順延されてしまうことはあまり知られていないようです。つまり有効期限が四年となつておりますが、三年六か月以内に更新研修の受講が必要となるわけですから、ぜひ早めの受講をおすすめいたします。

今後も茨城県スポーツ指導者協議会へのご協力をお願いすると共に、会員の皆様の更なるご活躍をご期待申し上げます。



広報委員長

君和田 治也

スポーツ指導者協議会では指導者協議会活動の情報を、7月と3月に年2回発行しています。内容的には長年にわたり各地域やスポーツ種目にて活動された功労者の紹介（受賞者あいさつ）や県内各支部の活動紹介（支部だより）など掲載しています。昭和54年から発行され令和元年にて79号まで発行されています。今迄に発行

された先輩関係者には感謝申し上げます。時代も変わり、今では会報誌も

Web版で見ることができるようになっていきます。すべてがWeb版になればスポーツ指導者協議会活動内容を知っていただく機会が減少する事も有るので、7月発行するものは、今まで通り会報誌として発行・発送し年間の実績報告や年間計画、研修予定や研修参加申し込み書を同封するやり方も有りかなと思います。そして、3月発行の広報誌にはWeb版だけでも良いのではないかと思います。また、Web版には研修会の講演内容の一部など動画を入れ込み講習会の内容を伝えることもできると思います。

広報誌の予算削減や広報誌を作成する苦勞を削減する事にもなります。また、このような会報誌にも、スポーツ指導者協議会に協賛していただくスポンサー広告でも入れることが出来れば良いのではないかなと思います。今後も原稿依頼がありましたらご協力よろしくお願いいたします。

支部だより

水戸支部

支部長

吉田 広光

令和元年七月二十日及び十七日に県教育委員会主催のスポーツ活動の研修会に参加しました。

初めに茨城大学の日下裕弘名誉

教授による生涯スポーツ指導「任務と役割」また、作新学院大学の石川 知講師による「スポーツ活動に関する経営又は企画」など県社会教育研究会長、長谷川幸介氏による「地域におけるスポーツの役割」など、また、筑波技術大学の香田泰子教授による「障害とスポーツ」最後に川村学園女子大学教授による「中高年と子ども世代間の交流について」研修を受けたことにより、スポーツ界の未来への考え方が異なる所もあり、理念としてすでに研修を受け、講義もあり、今後の活動に対しての共通点もあり参考にしたと考えております。

昨年第七十四回国民体育大会、いきいき茨城ゆめ国体が開催され多くの成果と感動を残しました。県民一丸となって準備運営に当たり、地元水戸でも皆さんの思いが伝わり、各会場で繰り広げられた活躍は大会を大いに盛り上げ、貴重な体験をされた事と思います。私も二度開催地に足を運び、県外からの皆様と共に競技大会での活躍を目指し郷土の代表として参加された選手の皆様の応援をしてきました。天皇杯・皇后杯を獲得できて、スポーツのもつ多様性が各競技者の力を一つにくれた大会でした。

本年二〇二〇年東京五輪パラリンピック競技大会での活躍目指し生涯にわたってフェアプレー精神と郷土愛を持ち続けスポーツを通して豊かな社会実現に貢献したいものです。開会式は七月二十四

日です。鈴木大地スポーツ庁長官は、世の多くの人々に夢と感動を与える大会となるようオールジャパン体制で取り組みたいと話しておりました。

水戸支部の研修は、令和二年九月六日に予定しています。

中央支部

事務局長

野々村 律子

令和元年度の中央支部としての反省は、例年恒例の事業の外に新規に日本スポーツ協会、茨城県指導者協議会主催の中央地区指導者研修会を、令和元年十二月二十二日(日)笠松運動公園陸上競技場会議室に於いて、とどこおりなく開催出来ました。隔年開催となりますが、それも視野に入れた活動を引き継いでいきたいと思っております。

令和二年度の予定と致しましては、四月四日(土)ひたちなか市松戸体育館研修室Aに於いての、支部総会開催。日本スポーツ協会課題の知識を極めて欲しいという中で、活動の中で、日常の行動の中で意識を高めるべく、救急救命講習会を、六月上旬にひたちなか市田彦消防署にて開催予定であります。七月上旬に、毎年恒例の中央支部主催の資格更新研修会を笠松運動公園多目的室にて予定しています。支部研修会に於いて、研究協議の時間は、会員の皆様の中から仲間知らせたい情報、知識をと思っておりますので、総会の出欠申込書に御一報賜れば、幸いです。事務局からお願いです。

県南支部

支部長

櫻井 孝之

令和元年は天皇陛下即位の礼や茨城国体の開催、ラクビーワールドカップ等ビックイベントが続きました。一方で自然災害に悩まされ、県内でも多数の方々が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。

スポーツ指導者資格も、新制度に移行する意向期間が設定され、令和二年度から三年間の移行期間となり、各競技団体等に於いて順次実施される事と思います。私も昨年十月スポ少認定育成員資格の講習会に参加致しました。コミュニケーションスキルアップの一日講習会でした。六人程のグループでファシリテーションのグループワークを行いました。ファシリテートとは、グループの司会者的役割を担い、参加者の全員の意見を引き出し、新たな気付きを促して意見の集約を図る。結果として、質問力が試され、相づちやアイコンタクト、否定せず話し易い雰囲気、要点を理解し事実と意見を混乱せずまとめて、全員を主体的に参加させて、タイムマネージメント「時間を意識」し中立の立場で纏める。結果参加者全員で評価し合い次に進むといった感じで行われました。これからの指導者要請講習に於いて、グループワークの時間割が設定されてゆくと思います。資格更新研修会が今年度から年四回の実施となりました。令和二年度は県南地区で十一月

に開催予定です。資格移行期の三年間、様々な試行がなされると思われませんが、新たなコーチング研修に参加され研鑽されることをお願い致します。

一月県スポーツ研修会が行方市で開催されました。少年団指導者資格の新たな資格制度移行について伊藤先生の講演、質疑が行われました。スタートコーチの資格取得登録・移行処置等少年団指導者の独自の視点で、資格更新、資格取得の質疑が行われました。市町村少年団事務局に質疑に対する詳細な回答がなされる事になりました。東京オリンピック開催を機に、新たな指導者「コーチ」像を理解し、コーチングスキルアップに、更なる努力を重ねたいと思います。

県西支部

事務局長

近藤 康雄

平成三十一年度（令和元年度）の県西支部活動も終わりに近づいています。県西支部、下期の活動としては隔年に行っている令和元年度茨城県スポーツ指導者研修会（県西地区研修）を令和元年十一月十日（日）に一昨年に続いて下妻市千代川公民館で開催しました。古河市の施設を確認した所、全ての施設が予約出来ず、下妻市に連絡した所、二つ返事で了解してもらいました。今回も下妻市教育委員会生涯学習課スポーツ振興課の方々の協力と千代川公民館の担当の方々の協力で実施できました。ご協力ありがとうございました。話題を研修会に戻します

が、参加者は大塚製菓様の情報提供（熱中症予防他）を頂き、講演Ⅰでは、今年度の全県研修会でも講演頂いたコミュニケーション・コンサルティングホット・コミュニケーション・シミュレーションズ代表の茂木ゆういち先生による「コミュニケーションとスポーツ指導」と題して講演を頂きました。スポーツ指導に大切なコミュニケーション、何故必要か？広辞苑によると自分の考えや感性を伝えることが必要であると載っている。一方通行にならない、基本的には会話・相手を理解する。信頼関係を大事にする。人には一人一人個性があり四つの特徴があり、直進型・促進型・分析型・援助型等で理解をしておしななければならぬ。茂木先生特有の参加者を取り込んでの講演でした。四つのグループに分かれての会話形式で時間があつとゆう間に過ぎていきました。昼食を挟んで午後からの講演Ⅱは日本スポーツコーチング協会の佐藤誠一先生による「本番で実力を発揮させる声のかけかた」参加者二人一組になり、ジャンケンして負けた人間同士で組み、自己紹介、今、こんな指導をしている等一人一分二分でやりました。指導をしている段階で選手が実力を発揮した時の声のかけ方、選手との関係性をペアで話をする。佐藤先生も茂木先生同様に参加者が常に会話をしている研修会でした。指導するにあたって信頼関係が絶対必要になることが大事だということを改めて感じました。研修会終了後も参加者から

茂木先生・佐藤先生に質問をしていました。又、指導者は常に自己研鑽に努めることも改めて感じました。最後になりますが照沼会長はじめ、茨城県体育協会の方々、渡辺研修会副委員長、高野事務局次長、君和田広報委員長、遠路お越しいただきありがとうございます。又、県西支部役員の方々のご協力ありがとうございました。今回は県西地区担当の研修会の内容を紹介いたしました。

鹿行支部

副支部長

君和田 治也

令和元年度茨城県スポーツ指導者鹿行地区研修会は令和二年二月二十六日、行方市北浦公民館にて受講者六十五名を受け入れ開催することができました。

講演内容は、「みんなが楽しめるスポーツ教室」茂木ゆういち氏、「走り方の基本動作をつくる」佐藤誠一氏で行われました。

講演テーマに沿った内容に参加者がどのように思っているのか？話し合いながら、いろいろな意見を聞きながらまとめていく進め方で盛り上がりつつありました。スポーツ種目の違う方々で話し合う事は参考にならない気もするとの声もありました。

鹿行支部は、以前より各市の行政関係者と一般スポーツ指導者が委員になっていただき支部行事を進めています。今回の研修開催にあたり行政の方の応援を頂き、研修を無事に終える事が出来ました。今後、支部活動を盛り上げるた

めには、スポーツ指導者協議会の委員になって頂く様に新しいメンバーを探し、世代交代を進めなければならぬとも考えています。令和二年度よりスポーツ少年団の指導者も資格更新制度に関わってきますので、これからを見据えて鹿行支部の盛り上げ方を考えていかなければならないと思います。公認スポーツ指導者資格を更新するための研修が茨城県内及び県内各地域で行われる事は、受講者にとって非常に便利であると感じている方も多くいらっしゃいます。その期待に応えるべく活動を進めたいと思います。

県北支部

支部長

梅村 恒雄

前回、今年度の事業についてご報告しましたので、その後の事業計画の進捗状況についてご報告します。

平成三十一年度（令和元年度）事業実績報告

三月 四日定例会

・県常任理事会報告

・支部総会対策

・支部広報対策

四月 四日定例会

・県常任理事会報告

・支部総会対策

・支部広報発行

五月 一三日定例会

・県理事会・総会報告

・支部総会対策

六月 三日定例会

・支部総会総括

・支部役員研修会対策

本協議会事務局便り

※本協議会事務局便りは、会報 42 号まで掲載を 20 年ぶり会報 80 号から復活して、会員皆様に本協議会の新しい情報を事前に発信いたします。

●令和 2 年度本協議会総会予定

日 時 令和 2 年 4 月 29 日 (水) 祝日
会 場 笠間市・友部公民館

●令和 2 年度研修会 (全県研修・地区研修) 予定

(1)全県研修会

日 時 令和 2 年 8 月 2 日 (日)
会 場 笠間市・友部公民館

(2)水戸地区研修会

日 時 令和 2 年 9 月 6 日 (日)

会 場 水戸市・J R グループ茨城教育センター

(3)県南地区研修会

日 時 令和 2 年 11 月 8 日 (日)

会 場 阿見町・本郷ふれあいセンター

(4)県北地区研修会

日 時 令和 3 年 2 月 7 日 (日)

会 場 日立市・茨城県県北生涯学習センター

●令和 2 年度本協議会会報発行予定

会報 8 1 号発行 令和 2 年 9 月 15 日

会報 8 2 号発行 令和 3 年 3 月 15 日

●令和 2 年度スポーツ少年団登録規程について

令和 2 年度から新たなスポーツ少年団登録規程・同規程施行細則、スポーツ少年団指導者に関する諸規程等が施行されます。

詳細は Sport Japah 2019 年 11-12 月号 P.78 ~ 79 参照

★茨城県スポーツ指導者協会会員入会お知らせ

① (公財) 日本スポーツ協会に 2020 年 3 月まで資格更新及び新規取得された公認スポーツ指導者の方々に会員入会のご案内を 4 月中旬に郵送しますので、ご理解の上、ご入会を宜しくお願い致します。

② (公財) 日本バスケットボール協会に 2020 年 5 月まで資格更新及び新規取得された J B A 公認コーチライセンスの方々に会員入会のご案内を 5 月中旬に郵送しますので、ご理解の上、ご入会を宜しくお願い致します。

☆茨城県スポーツ指導者協会連絡先について

茨城県スポーツ指導者協議会

〒306-0204 茨城県古河市下大野 1463-4

TEL 0280-92-4555 FAX 0280-92-4555

担当・事務局 鈴木事務局長

七月	八月	九月	十月
・女性センター対策 ・支部広報対策 ・一日定例会 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・女性センター祭対策 ・支部広報対策 ・五日定例会	・全県研修会報告 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・支部広報発行 ・女性センター祭対策 ・二日定例会 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・支部広報発行 ・女性センター祭対策 ・二日定例会	・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・女性センター対策 ・七日定例会 ・県提出書類対策 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・支部広報発行 ・女性センター祭対策 ・二日定例会	・女性センター対策 ・支部広報対策 ・一日定例会 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会対策 ・女性センター祭対策 ・支部広報対策 ・五日定例会
十一月十一日定例会 ・女性センター対策 ・支部研修会対策 ・支部役員研修会報告 ・女性センター報告 ・二日定例会	十二月 ・二日定例会 ・県北地区研修会対策 ・支部研修会対策 ・新年懇親会対策 ・一月二十日定例会 ・県提出書類対策 ・支部研修会対策 ・支部総会対策 ・支部広報対策 ・二日定例会	二月 ・二日定例会 ・県提出書類審議 ・支部総会対策 ・支部広報対策 ・支部総会対策 ・支部広報対策 ・二日定例会	以上が現在までに実施した事業です。 次回の県北地区研修会の会場を日立市・茨城県県北生涯学習センター

ターで開催することで決定しました。内容については、会員の皆さまから喜ばれる講演内容としていきたいと考えております。

今後の事業は、三月に支部広報紙の発行、五月十七日に支部総会を予定しています。総会は、令和元年度の反省と、令和二年度の事業計画について議論し、会員の皆様の活動の一助となるような計画を立て、支部役員一同精一杯頑張りますので会員の皆様の総会への参加とご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

会員入会協力へのおねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間、会員入会をお勧めいただける様、ご協力をお願いいたします。

広報委員会

広報委員長 君和田治也 (鹿行支部)
広報副委員長 高野 照代 (鹿行支部)
佐藤 マツ (県北支部)
櫻井 孝之 (県南支部)
大竹 幹夫 (県西支部)
関根あさ子 (事務局)
鈴木 義夫 (事務局長)

編集後記

第八十号会報発行に当たり皆様に原稿執筆を賜り心から感謝申し上げます。
ご愛読いただける会報となるよう努力してまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思ひます。

今回の会報八十一号発行は
令和二年九月十五日 (予定)

《会報 79 号の誤記訂正》

前回の会報七十九号に四ページの掲載事項に誤りがありましたので訂正いたします。

・誤・・・正・・・
高萩市 高萩市
八百 優 八百 律

関係各位に多大なる御迷惑をおかけしました事にお詫びいたします。